観光関連事業者・団体の白神山地の保全・利用に関する意識調査　結果概要

環白神エコツーリズム推進協議会　平成 26 年 3 月

（調査結果に関するお問い合わせ先）
環白神エコツーリズム推進協議会　事務局
〒038-2792　西津軽郡鰺ヶ沢町大字本町 209-2　鰺ヶ沢町観光商工課内
電話：0173-72-2111　FAX：0173 - 72 - 2374　ホームページ：http://www.eco-shirakami.net/

「環白神（かんしらかみ）エコツーリズム推進協議会（弘前市、西目屋村、鰺ヶ沢町、深浦町、能代市、藤里町、八峰町、三種町の 8 市町村と、青森県、秋田県、林野庁、環境省により構成）」では、白神山地の自然を守りながら活用し、地域振興につなげるための取組として、「環白神エコツーリズム」を推進しています。

本協議会では、2014 年 1 月～ 3 月にかけて、「観光関連事業者・団体の白神山地の保全・利用に関する意識調査」を実施しました。この調査は、民間団体・事業者等が、白神山地を活用した観光振興や、自然保護に対してどのように感じ、考えているかを探り、環白神地域エコツーリズムを推進する上での課題を探るためのものです。主な調査結果は以下のとおりです。

＜主な結果＞

○白神山地での散策や登山などの観光に参加する旅行者を取り扱うことがある団体・事業者が 8 割、参加人数は取扱客の 25% 未満が 4 割

○旅行者が利用するフィールド（散策路や登山道など）は、十二湖･青池や白神の森遊山道など、一部に集中する傾向

○旅行者の声は、白神山地の自然に接して感動した（ガイドの有無で異なる）、交通アクセスが不便、案内情報が不足、楽しみ方の情報が不足、散策コース等の整備が不足など

○白神山地の活用や観光振興、自然保護に関心がある団体・事業者が 7 割

○今後の課題は、誘客の強化、エコツアープログラムの強化、フィールドの整備、交通アクセスの整備、自然保護に向けた取組の強化、住民の関心向上、共有できる目標やビジョンづくりなど

○協議会への期待は、協議会の活動内容の共有、ビジョンや目標の明確化、地域連携による協議会であることを生かした事業の実施など

調査の実施方法

ヒアリング調査とアンケート調査を併用して行いました。

ヒアリング調査の実施方法

調査対象	環白神地域のガイド事業者･団体（8 団体）、観光協会（8 団体）、宿泊業（3 団体）、旅行業（3 団体）、行政機関（10 団体）の計 32 団体
調査方法	ヒアリング調査（面接式）
調査期間	2014 年 1 月 16 日～ 2014 年 2 月 14 日迄のうち延べ 10 日間

アンケート調査の実施方法

調査対象	環白神地域の宿泊業（134 団体）、行政・地域振興団体（15 団体）、ガイド業（23 団体）、旅行業（3 団体）、観光拠点施設・その他（23 団体）の計 198 団体
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収
調査期間	2014 年 2 月 27 日～ 2014 年 3 月 8 日迄（10 日間）
調査規模	配布：198 通、回収 76 通、回収率 38.4%

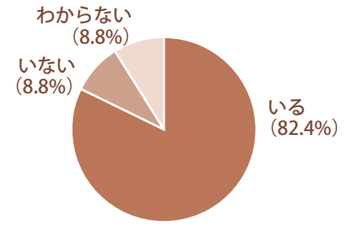
白神山地での散策や登山などの観光に参加する旅行者の有無と、参加人数の割合

白神山地での散策や登山などの観光に参加する旅行者を取り扱うことがある団体・事業者が 8 割、参加人数は取扱客の 25% 未満が 4 割

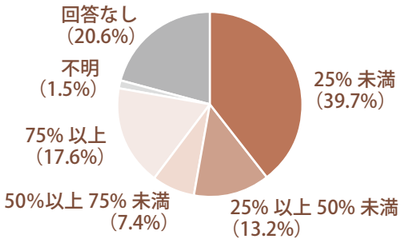
各団体・事業者のお客様の中で、白神山地で散策や登山などの観光に参加する旅行者の有無を聞いたところ、「いる」が 8 割、「いない」が 1 割、「分からない」が 1 割でした。総じて、白神山地での散策や登山などへの参加者を取り扱う機会は多いようです。

一方、取扱客に占める参加人数の割合は、「25% 未満」が 4 割、「25% 以上 50% 未満」が 1 割、「50% 以上 75% 未満」が 1 割、「75% 以上」が 2 割、「回答なし」が 2 割などで、必ずしも参加人数が多いとはいえないようです。

白神山地での観光をされる方の有無
※行政・地域振興団体を除く（n=68）



取扱人数に占める白神観光の割合
※行政・地域振興団体を除く（n=68）



旅行者が利用するフィールド（散策路や登山道など）

旅行者が利用するフィールド（散策路や登山道など）は、十二湖・青池や白神の森遊山道など、一部に集中する傾向

各団体・事業者のお客様のうち、白神山地を訪問するお客様について、観光施設も含めてどこに行っているかを聞いたところ、延べ 96 地点（延べ 261 件）が挙げられました。このうち、フィールド（散策路や登山道など）は 41 地点（延べ 182 件）でした。

上位は、「十二湖・青池」が 35 件、「白神の森遊山道（旧ミニ白神）」が 15 件、「くろくまの滝」と「暗門の滝遊歩道・ブナ林散策道」が 14 件、「岳岱自然観察教育林」が 11 件などでした。

上位 9 位までで全体の指摘数の 7 割以上を占めていることから、実際の旅行者の訪問状況も一部のフィールドに集中しているのではないかと考えられます。

旅行者の主な訪問箇所として挙げられたもの
（上位のみ）

場所	件数
十二湖・青池	35 件
白神の森遊山道（ミニ白神）	15 件
くろくまの滝	14 件
暗門の滝遊歩道・ブナ林散策道	14 件
岳岱自然観察教育林	11 件
白神岳	9 件
二ツ森	9 件
留山	8 件
マザーツリー	5 件
天狗岳	5 件
藤里駒ケ岳	5 件

旅行者から白神山地の観光について聞いている感想

白神山地の自然に接して感動した（ガイドの有無で異なる）、交通アクセスが不便、案内情報が不足、楽しみ方の情報が不足、散策コース等の整備が不足など

各団体・事業者が、お客様から聞いたことがある、白神山地での観光について聞いた意見や感想などを聞いたところ、主に以下のような回答をいただきました。

○白神山地の自然に接して感動した
白神山地の自然の素晴らしさ、自然度の高さ、景色、迫力などへの感動が挙げられました。一方で、ガイドを付けたお客様とそうでないお客様とでは感想が異なっているという声もありました。

○目的地までの交通アクセスが不便、案内情報が足りない
主要駅などに到着した後、その先の目的地までの移動手段がなく不便、交通アクセスについての情報も少ない（旅行前に得られない、現地に来ても得られないなど）という声がありました。

○楽しみ方が分からない
白神山地で何を見たら良いか分からない（どこを訪れれば白神山地に来たことになるのか）、どうやって楽しんだら良いか分からないという声がありました。また、冬場の楽しみが少ない、コースの選択肢が少ないといった声もありました。また、ガイドを付けないと白神山地の魅力は分からないのではないか、という声や、ガイドのレベルアップが必要、ガイド料金が分かりづらい、高い、という声もありました。

○散策コースや登山道などの整備への不満
散策コースや登山道などの整備（修繕や刈り払いなど）が十分でない、山頂などが木々が茂って景色が楽しめない、といった声がありました。また、携帯電話が繋がらないため安全上の不安がある、という意見もありました。

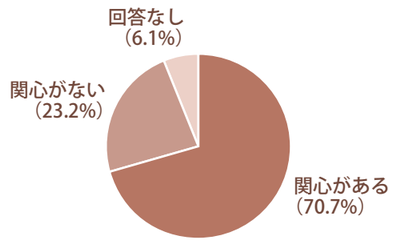
○その他
物販や飲食・土産などのお店が少ないことへの不満、自然災害などで通行止めや利用不可能な場所があっても事前に分からないことへの不満、外国語の情報が少ないことへの不満なども挙げられました。

白神山地の活用や観光振興、自然保護への関心

白神山地の活用や観光振興、自然保護に関心がある団体・事業者が 7 割

各団体・事業者の方に、白神山地の活用や観光振興、自然保護に関心があるかどうかを聞いたところ、「関心がある」が 7 割、「関心がない」が 2 割、「回答なし」が 1 割でした。全体として高い関心があると考えられます。

白神山地の活用や観光振興、自然保護への関心
※行政・地域振興団体を除く（n=68）



白神山地の活用や観光振興、自然保護を進めるうえでの課題など

誘客の強化、エコツアープログラムの強化、フィールドの整備、交通アクセスの整備、自然保護に向けた取組の強化、住民の関心向上、共有できる目標やビジョンづくりなど

各団体・事業者の方に、今後の白神山地における観光振興や自然保護の課題や改善提案などを聞きました。主な意見としては、以下のようなものがありました。

○誘客の強化
エリア誘客（個別の市町村ではなくエリアで連携した誘客）の強化、外国人旅行者への対応強化、白神ブランドの強化（ブランドの発信、安売りをしない）などが挙げられました。また、白神山地を核とした＋αの魅力開発（白神を活かした商品開発や、滞在の魅力づくり）を進めるべき、という声もありました。

○エコツアープログラムの強化
閑散期（特に冬期）を含めて、一年中プログラムを提供できるようにプログラムを開発することや、現在よりもさらに質の高いプログラムづくり、ガイドの育成などが挙げられました。

○エコツアーで活用するフィールド（散策路や登山道など）の整備
一部のフィールド（散策路や登山道など）に利用が集中していることが指摘されていますが、お客様の選択肢を増やすことや、自然災害へのリスク分散、環境への負荷軽減等の視点から、新たにフィールドを整備するべきという声がありました。また、修繕や刈り払いが十分でないコースもある、という指摘がありました。
また、世界遺産地域の観光利用についても、一定の条件（ガイドを付ける等）の中で考えていくべきではないか、という意見もありました。

○交通アクセスの整備
主要駅から目的地までの移動方法（二次交通）が課題として多く挙げられました。また、自家用車で来る観光客の路上駐車の問題も指摘されています。対応策として、主要駅を発着するバスツアーなどを充実してはどうか、途中の施設（道の駅など）に車を停めてバスでピストン輸送してはどうか、ロープウェイを作ってはどうか、などの意見もありました。

○自然保護にむけた取組の強化
観光振興に向けた取組と合わせて、自然保護に向けた取組も重要であるとの指摘がありました。利用者や事業者の意識やマナーの向上（利用マナー等の事前周知、事業者が高い意識をもって利用する、質の高い旅行者を誘客するなど）や、多くの方が利用することによって侵入する外来種等（本来白神山地にいない動植物）への対策、コースを大勢が利用したりコースをはみ出すことによる植物の踏み荒らしへの対策、車の排気ガスへの対策などの必要性が挙げられました。
また、そうした状況を踏まえて、現在よりも観光利用の範囲を縮小すべきではないか、という声もありました。

○白神山地への住民の関心向上
住民自身が、昔と比べて白神山地を利用しなくなった（できなくなった）ことにより、暮らしの中での重要性が薄れ、関心も薄れて、山を利用する知恵なども失われてきているという指摘がありました。

○白神山地の活用や観光振興、自然保護に向けた、共有できる目標、ビジョンが見えてこない
白神山地の活用や、自然保護等の取組を行う上での目標やビジョンが共有されていない、多くの人が一緒に取り組むのであれば、何を目指すのか、というビジョンを作り上げる必要があるという指摘がありました。

環白神エコツーリズム推進協議会にどんなことを期待しますか

協議会の活動内容の共有、ビジョンや目標の明確化、地域連携による協議会であることを生かした事業の実施など

各団体・事業者の方に、環白神エコツーリズム推進協議会へ期待することを聞きました。主な意見としては、以下のようなものがありました。

○協議会の活動内容を共有してほしい
どのような活動をしているのかが分からない、もっと民間に情報を共有してほしい、民間（観光協会、民間事業者）の参画を進めるべきという意見がありました。

○ビジョンや目標を明確にしてほしい
環白神地域が共通して目指す姿・目標・ビジョンや、達成するための具体的な戦略を構築・共有しないと効果が見えてこないのではないか、という意見がありました。

○地域連携による協議会であることを生かした事業を実施してほしい
協議会の事業内容への意見として、環白神地域全体としての情報発信や PR の強化、行政間連携の強化（国との連携、地域間連携）、民間事業者の参加・交流の場づくり、ガイド人材の育成（技術向上、統一した制度づくり）、新プログラムの造成（白神山地らしいプログラム）、新たな散策コースの整備、環白神地域全体の旅行者窓口づくり、交通アクセスや案内情報の整備、などがあげられました。